

# 令和元年度 港湾空港技術講演会

日時

令和元年10月11日(金)  
12時30分～16時00分  
開場(受付開始) 12時00分～

会場

建築会館  
東京都港区芝

## ■ 講演会概要 ■

本講演は、国土交通省国土技術政策総合研究所及び国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所港湾空港技術研究所で実施している調査、研究、技術開発の成果を公表し、その普及に努めることを目的に開催しております。

本年度の講演は、両研究所から最近の研究成果を発表します。

多忙中とは存じますが、皆様お誘い合わせの上ご来場賜りますようご案内申し上げます。

申込  
方法

必要事項を明記の上、FAX 又は e-mailで  
お申し込み下さい。

## ■ 必要事項 ■

件名『港湾空港技術講演会 参加申込』

- ①氏名
- ②所属名
- ③住所
- ④電話番号
- ⑤CPDの申請希望

(FAXでお申し込みの方は、FAX番号もお知らせ下さい)

## ■ 申込締切 ■

10月4日(金)

申込多数の場合は、定員になり次第締切とさせていただきます。

入場

無料  
定員：200名



土木学会  
CPDプログラム  
JSCE19-1020  
3.0単位

## ■ お申込み・お問合せ先

E-mail: [ysk.nil-kouenkai@gxb.mlit.go.jp](mailto:ysk.nil-kouenkai@gxb.mlit.go.jp)

Fax : 046-842-9265

国土交通省  
国土技術政策総合研究所  
管理調整部企画調整課  
Tel : 046-844-5019

国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所  
港湾空港技術研究所  
管理調整・防災部 企画調整・防災課  
Tel : 046-844-5040

## ■ 会場マップ



## プログラム

12:00 開場（受付開始）

12:30 開会挨拶

栗山 善昭 港湾空港技術研究所 所長

12:40 『沿岸域における環境の価値の定量化』

岡田 知也 国土技術政策総合研究所 沿岸海洋・防災研究部 海洋環境・危機管理研究室長

13:15 『ナウファスの現状とナウファスデータを活用した最近の取り組み』

川口 浩二 港湾空港技術研究所 海洋情報・津波研究領域 海象情報研究グループ長

13:50 休憩（15分）

14:05 『係留施設の地震時変位計測と利用可否判断』

大矢 陽介 港湾空港技術研究所 地震防災研究領域 耐震構造研究グループ 主任研究官

14:40 『水中建機用マシンガイダンスの開発と遠隔操作化にむけた取り組み』

平林 丈嗣 港湾空港技術研究所 新技術研究開発領域 ロボティクス研究グループ 主任研究官

15:15 『空港技術に関する研究の動向』

水上 純一 国土技術政策総合研究所 空港研究部長

15:50 閉会挨拶

諸星 一信 国土技術政策総合研究所 副所長

## 講演紹介

### 岡田 知也

#### 『沿岸域における環境の価値の定量化』

造成干潟の適切な維持・管理に役立つ環境価値の定量化手法を開発した。  
本手法は、干潟の保全・再生・創造の環境改善事業の価値を得点および経済価値で示すだけでなく、その価値を高める効果的な改善策の留意点を見つけることができる手法である。

### 川口 浩二

#### 『ナウファスの現状とナウファスデータを活用した最近の取り組み』

平成30年の「港湾の施設の技術上の基準・同解説」の改訂では「うねり性波浪」に関する記述が加わるなど、より高度な波浪情報が必要となることが想定される。  
本講演では、ナウファスの現状及びナウファスデータを活用した最近の取り組みを紹介する。

### 大矢 陽介

#### 『係留施設の地震時変位計測と利用可否判断』

地震後の係留施設を対象とした、RTK-GNSSや無人航空機を活用した変位計測の技術開発に取り組んでいる。  
計測精度を確認する目的で実施した現地実験、変位計測から施設の利用可否判定までサポートするAndroidアプリケーションについて紹介する。

### 平林 丈嗣

#### 『水中建機用マシンガイダンスの開発と遠隔操作化にむけた取り組み』

水中施工現場において、潜水作業環境の改善や生産性向上を目的とした機械化施工の実現が望まれている。  
本発表では、陸上施工で活用されつつあるICT施工技術を水中施工機械に応用した水中版マシンガイダンスと、その遠隔操作化にむけた取り組みについて紹介する。

### 水上 純一

#### 『空港技術に関する研究の動向』

空港研究部で行っている空港土木施設の設計および維持・管理に関連する研究について紹介する。  
特に空港舗装に関する路面性状調査、地震などの災害発生後の点検手法について報告する。  
あわせて最近の研究トピックスについても紹介する。